

実務経験のある教員等による授業科目

科目名	こどもと音楽表現「ピアノⅠ」		担当者氏名	深見ゆかり	
学 科	こども未来学科 小学校幼稚園教諭・保育士コース	開講期	通年	授業時間数	60時間
開講学年	1年				
授業目標	保育内容を理解し、具体的かつ豊かな音楽表現活動ができる技術と知識の習得を到達目標とする				
授業概要	ピアノ奏法を学び、弾きうたいや伴奏法への応用を中心に各自習得度に応じた指導を個人レッスンとグループレッスンにて行う				
授 業 計 画 表	1	オリエンテーション	16	(個) 実習曲を弾きうたいにする	
	2	(個) 拍の流れを感じて弾く	17	弾きうたいの伴奏法を学ぶ	
	3	正確なリズムで弾く	18	(グ) 2年次の実習曲の伴奏付け	
	4	(グ) 読譜力をつける	19	(グ) 2年次の実習曲の伴奏付け	
	5	単音伴奏で弾く	20	(個) 歌詞を理解して弾き方を工夫する	
	6	(個) 実習曲の練習	21	(グ) 2年次の実習曲の伴奏付け	
	7	ハ長調の理解	22	(グ) 2年次の実習曲の伴奏付け	
	8	旋律と伴奏を合わせて弾く	23	(グ) 2年次の実習曲の伴奏付け	
	9	(グ) コードの基礎、和音伴奏で弾く	24	(個) 余裕を持って弾きうたいができるようにする	
	10	(個) 実習曲の練習	25	(グ) スケールとカデンツのまとめ	
	11	ハ長調の理解	26	(グ) スケールとカデンツのまとめ	
	12	(グ) コードネームについて	27	(グ) スケールとカデンツのまとめ	
	13	カデンツについて	28	総復習	
	14	豊岡課題確認レッスン	29	総復習	
	15	総復習	30	総復習	
成績評価基準	実技試験点80% 授業状況点20%				
使用テキスト等	「実用こどもの歌曲200選」ドレミ楽譜出版社「こどもと音楽表現」豊岡短期大学				
実務経験	当該教員は保育園の他、ピアノ教室、リトミック教室での勤務経験がある。				

実務経験のある教員等による授業科目

科目名	こどもと音楽表現「ピアノⅡ」		担当者氏名	深見ゆかり	
学 科	こども未来学科				
開講学年	小学校/幼稚園教諭・保育士コース 2年	開講期	通年	授業時間数	60時間
授業目標	保育内容を理解し、具体的かつ豊かな音楽表現活動ができる技術と知識の習得を到達目標とする				
授業概要	ピアノ奏法を学び、弾きたいや伴奏法への応用を中心に各自習得度に応じた指導を個人レッスンとグループレッスンにて行う				
授 業 計 画 表	1	オリエンテーション	16	豊岡課題確認レッスン	
	2	(個) 実習曲を選択	17	(個) 季節・行事の曲を選択	
	3	旋律と伴奏のバランスを考えて演奏する	18	(グ) いろいろな伴奏形	
	4	(グ) 実習曲の取り扱い	19	リズムパターンを学ぶ	
	5	各自伴奏を作る	20	リズムパターンを学ぶ	
	6	(個) 曲想や強弱をつけて演奏する	21	(個) 歌詞を理解して弾き方を工夫する	
	7	(グ) 実習曲の取り扱い	22	(グ) 両手コード伴奏の導入	
	8	各自伴奏を作る	23	(グ) 両手コード伴奏の導入	
	9	各自伴奏を作る	24	(グ) 両手コード伴奏の導入	
	10	(個) 奏法の記号を表現しさまざまな表情をつける	25	(個) 曲の感じをつかみふさわしい速さで演奏する	
	11	(グ) スケール、カデンツの復習	26	(グ) 両手コード伴奏を作る	
	12	(グ) スケール、カデンツの復習	27	(グ) 両手コード伴奏を作る	
	13	(グ) スケール、カデンツの復習	28	(グ) 両手コード伴奏を作る	
	14	総復習	29	総復習	
	15	総復習	30	総復習	
成績評価基準	実技試験点80% 授業状況点20%				
使用テキスト等	「実用こどもの歌曲200選」ドレミ楽譜出版社「こどもと音楽表現」豊岡短期大学				
実務経験	当該教員は保育園の他、ピアノ教室、リトミック教室での勤務経験がある。				

実務経験のある教員等による授業科目

科目名	こどもと音楽表現「ピアノⅢ」		担当者氏名	深見ゆかり	
学 科	こども未来学科 小学校/幼稚園教諭・保育士コース	開講期	通年	授業時間数	60時間
開講学年	3年				
授業目標	保育内容を理解し、具体的かつ豊かな音楽表現活動ができる技術と知識の習得を到達目標とする				
授業概要	ピアノ奏法を学び、弾きうたいや伴奏法への応用を中心に各自習得度に応じた指導を個人レッスンとグループレッスンにて行う				
授 業 計 画 表	1	オリエンテーション	16	(個) 教育：小学校共通教材の取り扱い 未来：アニメソング、卒園の歌	
	2	(個) 遊び歌、季節・行事の歌より選択	17	(グ) 教育：小学校1～3年教材 未来：旋律伴奏の奏法	
	3	(グ) 旋律伴奏と両手コード伴奏の使い方	18	(グ) 教育：小学校1～3年教材 未来：旋律伴奏の奏法	
	4	(グ) 旋律伴奏と両手コード伴奏の使い方	19	(グ) 教育：小学校1～3年教材 未来：旋律伴奏の奏法	
	5	(グ) 旋律伴奏と両手コード伴奏の使い方	20	(個) リズムにのって楽しく表現できるようにする	
	6	(個) 音楽の仕組みの理解	21	(グ) 教育：小学校4～6年教材 未来：両手コード伴奏の奏法	
	7	曲の形式の理解	22	(グ) 教育：小学校4～6年教材 未来：両手コード伴奏の奏法	
	8	(グ) 旋律伴奏と両手コード伴奏の使い方	23	(グ) 教育：小学校4～6年教材 未来：両手コード伴奏の奏法	
	9	(グ) 旋律伴奏と両手コード伴奏の使い方	24	(個) 正確に表現豊かに余裕を持って弾きうたいをする	
	10	(個) 曲にあった楽想を理解し、表現豊かに演奏する	25	旋律伴奏と両手コード伴奏ができる	
	11	(グ) コードとカデンツの確認	26	(グ) スケールとカデンツのまとめ	
	12	(グ) コードとカデンツの確認	27	(グ) スケールとカデンツのまとめ	
	13	(グ) コードとカデンツの確認	28	総復習	
	14	豊岡課題確認レッスン	29	総復習	
	15	総復習	30	総復習	
成績評価基準	実技試験点80% 授業状況点20%				
使用テキスト	「こどものうた伴奏大全集」自由現代社「実用こどもの歌曲200選」ドレミ楽譜出版社				
実務経験	当該教員は保育園の他、ピアノ教室、リトミック教室での勤務経験がある。				

実務経験のある教員等による授業科目

科目名	こどもの保健		担当者氏名	船越 利代子	
学 科	こども未来学科				
開講学年	小学校/幼稚園教諭・保育士コース 2年	開講期	通年	授業時間数	60時間
授業目標	1. 子どもの健康及び安全に係る保健活動の計画・及び評価について学ぶ。 2. 子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境を考える。 3. 子どもの疾病とその予防法及び適切な対応について具体的に学ぶ。 4. 救急時の対応や事故防止,安全管理について具体的に学ぶ。 5. 現代社会における心の健康問題や地域保健活動等について理解する。				
授業概要	子どもの健康及び安全に係る保健活動の計画や評価を行う。子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境を考えるとともに,現代社会における心の問題や地域保健活動等について学ぶ。				
授 業 計 画 表	1	保健活動の計画及び評価	16	子どもの生活習慣と心身の健康	
	2	保健計画の作成と活用	17	子どもの発達援助と保健活動	
	3	保健活動の記録と自己評価	18	子どもの疾病と適切な対応	
	4	保健活動の記録と自己評価	19	子どもの疾病と適切な対応	
	5	子どもの保健に係る個別対応	20	体調不良時 傷害が発生した場合の対応	
	6	集団の子どもの健康と安全・衛生管理	21	感染症の予防と対策	
	7	子どもの保健と環境	22	感染症の予防と対策	
	8	子どもの健康と生活の理解	23	個別的な配慮を必要とする子どもへの対応	
	9	養育者の環境・児童虐待の理解と防止	24	個別的な配慮を必要とする子どもへの対応	
	10	養育者の環境 家族支援	25	乳児への適切な対応	
	11	保健における養護と教育の一体性	26	傷害のある子どもへの適切な対応	
	12	保健における養護と教育の一体性	27	障害のある子どもへの適切な対応	
	13	子どもの健康増進と保育の環境	28	事故防止及び健康安全管理	
	14	子どもの健康増進と保育の環境	29	救急処置 救急蘇生法	
	15	子どもの生活習慣と心身の健康	30	まとめ	
成績評価 基準	定期試験に基づき授業内容の把握状況等を判断し成績評価とする				
使用テキ スト	『こどもの保健』豊岡短期大学通信教育部				
実務経験	当該教員は、看護師として病院勤務の経験がある				

実務経験のある教員等による授業科目

科目名	こどもの発達と家庭支援		担当者氏名	中山 恵美子	
学 科	こども未来学科				
開講学年	小学校幼稚園教諭・保育士コース 2年	開講期	通年	授業時間数	60時間
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。</li> <li>・家族・家庭の意義や機能を理解すると共に、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、こどもとその過程を包括的に捉える視点を習得する。</li> <li>・子育て家庭をめぐる現代の社会的状況を課題について理解する。</li> </ul>				
授業概要	子育て家庭を取り巻く様々な社会的状況について把握し、保護者支援の在り方等を明らかにしていく。問題を抱える家庭に対する支援等、社会的家庭に関する基本的な知識・家庭支援の専門性等について学ぶ				
授 業 計 画 表	1	乳幼児期から学童期前期にかけての発達	16	多様な家庭とその理解	
	2	乳幼児期から学童期前期にかけての発達	17	特別な配慮を要する家庭	
	3	学童期後期から青年期にかけての発達	18	特別な配慮を要する家庭	
	4	学童期後期から青年期にかけての発達	19	こどもの精神保健	
	5	成人期・老年期における発達	20	こどもの精神保健	
	6	成人期・老年期における発達	21	こどもの精神保健とその課題	
	7	家族・家庭の意義	22	こどもの精神保健とその課題	
	8	家族・家庭の機能	23	こどもの生活・生育環境	
	9	親子関係・家族関係の理解	24	こどもの生活・生育環境	
	10	子育ての経験と親としての育ち	25	こどもの生活・生育環境とその課題	
	11	子育て家庭に関する現状と課題	26	こどもの生活・生育環境とその課題	
	12	子育て家庭に関する課題	27	こどもの心の健康	
	13	子育てを取り巻く社会的状況	28	こどもの心の健康に関わる問題	
	14	ライフコースと仕事・子育て	29	こどもの心の健康に関わる問題	
	15	ライフコースと仕事・子育て	30	全体のまとめ	
成績評価 基準	定期試験に基づき授業内容の把握状況等を判断し成績評価とする				
使用テキ スト等	担当教員が独自資料を配布する				
実務経験	当該教員は、スクールカウンセラーとして学校での勤務経験がある				

実務経験のある教員等による授業科目

科目名	社会的養護Ⅱ		担当者氏名	谷 由紀子	
学 科	[こども未来学科] 学科	開講期	半期	授業時間数	30時間
開講学年	小学校/幼稚園教諭・保育士コース 2年				
授業目標	社会的養護の理念、機能を理解し、被虐待児の実質的な受け皿になっている児童養護施設を中心に施設養護の特性と実際について学ぶ。また、国が推進する家庭養護（里親など）の実際についても学ぶ。さらに社会的養護における計画・記録・評価、相談援助の方法・技術について知識を深めていく。社会的養護に関わるマスメディアの報道記事やDVDなどの視聴覚教材を用いて関心を深めていく。				
授業概要	社会的養護における計画・記録・評価、相談援助の方法・技術について知識を深めていく。社会的養護に関わるマスメディアの報道記事やDVDなどの視聴覚教材を用いて関心を深めていく。				
授業計画表	1	社会的養護の復習と現代社会と子育て家庭：社会的養護の理念と基本的枠組みを再度復習する。家族関係の変遷を通して現代社会の家庭問題を考える。			
	2	児童虐待の現状とその対応と援助①：児童虐待の予防と課題、被虐待児の対応等を学ぶ。DVD視聴			
	3	児童虐待の現状とその対応と援助②：児童虐待の予防と課題、被虐待児の対応等を学ぶ。児童の権利擁護について学ぶ。			
	4	施設養護の特性と実際：児童福祉施設の入所状況を通して施設養護の実態を知る。DVD視聴			
	5	家庭養護の特性と実際：里親制度、ファミリーホームについて学ぶ。			
	6	アセスメント、自立支援計画と児童相談所の役割：事例を通して入所から退所までの流れ（アドミッションケア、インケア、リーピングケア、アフターケア）とアセスメント、自立支援計画について学ぶ。			
	7	施設養護の実際を学ぶ①：日常生活支援について学ぶ。（ペアレントトレーニングの基礎等）			
	8	施設養護の実際を学ぶ②：乳幼児への支援について学ぶ。DVD視聴			
	9	施設養護の実際を学ぶ③：学童、高齢児への支援について学ぶ。（自立支援、アフターケア等）DVD視聴			
	10	施設養護の実際を学ぶ④：治療的支援について学ぶ。（心理的ケア、子どもの病気と手当て等）			
	11	施設養護の実際を学ぶ⑤：学校との連携、家族再統合について学ぶ。			
	12	保育士の倫理観、専門性とソーシャルワーク：保育士会倫理綱領を中心に保育士の倫理観、専門性を学ぶ。ソーシャルワークの必要性を知る。			
	13	施設の地域支援：施設が求められている地域支援、家族支援を学ぶ。			
	14	社会的養護の課題と展望			
	15	前期試験			
成績評価基準	定期試験、レポートの提出、授業への参加度などを見極めて評価する。				
使用テキスト等	「社会的養護Ⅱ」吉田眞理 萌文書林				
実務経験	当該教員は、児童養護施設・乳児院の管理者として在職中である。				

実務経験のある教員等による授業科目

科目名	こどもと音楽表現「ピアノⅠ」		担当者氏名	深見ゆかり	
学 科	こども未来学科				
開講学年	幼稚園教諭・保育士コース	開講期	通年	授業時間数	60時間
授業目標	保育内容を理解し、具体的かつ豊かな音楽表現活動ができる技術と知識の習得を到達目標とする				
授業概要	ピアノ奏法を学び、弾きうたいや伴奏法への応用を中心に各自習得度に応じた指導を個人レッスンとグループレッスンにて行う				
授 業 計 画 表	1	オリエンテーション	16	(個) 実習曲を弾きうたいにする	
	2	(個) 拍の流れを感じて弾く	17	弾きうたいの伴奏法を学ぶ	
	3	正確なリズムで弾く	18	(グ) 2年次の実習曲の伴奏付け	
	4	(グ) 読譜力をつける	19	(グ) 2年次の実習曲の伴奏付け	
	5	単音伴奏で弾く	20	(個) 歌詞を理解して弾き方を工夫する	
	6	(個) 実習曲の練習	21	(グ) 2年次の実習曲の伴奏付け	
	7	ハ長調の理解	22	(グ) 2年次の実習曲の伴奏付け	
	8	旋律と伴奏を合わせて弾く	23	(グ) 2年次の実習曲の伴奏付け	
	9	(グ) コードの基礎、和音伴奏で弾く	24	(個) 余裕を持って弾きうたいができるようにする	
	10	(個) 実習曲の練習	25	(グ) スケールとカデンツのまとめ	
	11	ヘ長調の理解	26	(グ) スケールとカデンツのまとめ	
	12	(グ) コードネームについて	27	(グ) スケールとカデンツのまとめ	
	13	カデンツについて	28	総復習	
	14	豊岡課題確認レッスン	29	総復習	
	15	総復習	30	総復習	
成績評価基準	実技試験点80% 授業状況点20%				
使用テキスト等	「実用こどもの歌曲200選」ドレミ楽譜出版社「こどもと音楽表現」豊岡短期大学				
実務経験	当該教員は保育園の他、ピアノ教室、リトミック教室での勤務経験がある。				

実務経験のある教員等による授業科目

科目名		こどもと音楽表現「ピアノⅡ」		担当者氏名	深見ゆかり	
学 科	こども未来学科					
開講学年	幼稚園教諭・保育士コース 2年	開講期	通年	授業時間数	60時間	
授業目標	保育内容を理解し、具体的かつ豊かな音楽表現活動ができる技術と知識の習得を到達目標とする					
授業概要	ピアノ奏法を学び、弾きうたいや伴奏法への応用を中心に各自習得度に応じた指導を個人レッスンとグループレッスンにて行う					
授 業 計 画 表	1	オリエンテーション		16	豊岡課題確認レッスン	
	2	(個) 実習曲を選択		17	(個) 季節・行事の曲を選択	
	3	旋律と伴奏のバランスを考えて演奏する		18	(グ) いろいろな伴奏形	
	4	(グ) 実習曲の取り扱い		19	リズムパターンを学ぶ	
	5	各自伴奏を作る		20	リズムパターンを学ぶ	
	6	(個) 曲想や強弱をつけて演奏する		21	(個) 歌詞を理解して弾き方を工夫する	
	7	(グ) 実習曲の取り扱い		22	(グ) 両手コード伴奏の導入	
	8	各自伴奏を作る		23	(グ) 両手コード伴奏の導入	
	9	各自伴奏を作る		24	(グ) 両手コード伴奏の導入	
	10	(個) 奏法の記号を表現しさまざまな表情をつける		25	(個) 曲の感じをつかみふさわしい速さで演奏する	
	11	(グ) スケール、カデンツの復習		26	(グ) 両手コード伴奏を作る	
	12	(グ) スケール、カデンツの復習		27	(グ) 両手コード伴奏を作る	
	13	(グ) スケール、カデンツの復習		28	(グ) 両手コード伴奏を作る	
	14	総復習		29	総復習	
	15	総復習		30	総復習	
成績評価基準	実技試験点80% 授業状況点20%					
使用テキスト等	「実用こどもの歌曲200選」ドレミ楽譜出版社「こどもと音楽表現」豊岡短期大学					
実務経験	当該教員は保育園の他、ピアノ教室、リトミック教室での勤務経験がある。					



実務経験のある教員等による授業科目

科目名	こどもと音楽表現「ピアノⅢ」	担当者氏名	深見ゆかり	
学 科	こども未来学科 幼稚園教諭・保育士コース	開講期	通年	授業時間数
開講学年	3年			60時間
授業目標	保育内容を理解し、具体的かつ豊かな音楽表現活動ができる技術と知識の習得を到達目標とする			
授業概要	ピアノ奏法を学び、弾きたいや伴奏法への応用を中心に各自習得度に応じた指導を個人レッスンとグループレッスンにて行う			
授 業 計 画 表	1	オリエンテーション	16	(個) 教育：小学校共通教材の取り扱い 未来：アニメソング、卒園の歌
	2	(個) 遊び歌、季節・行事の歌より選択	17	(グ) 教育：小学校1～3年教材 未来：旋律伴奏の奏法
	3	(グ) 旋律伴奏と両手コード伴奏の使い方	18	(グ) 教育：小学校1～3年教材 未来：旋律伴奏の奏法
	4	(グ) 旋律伴奏と両手コード伴奏の使い方	19	(グ) 教育：小学校1～3年教材 未来：旋律伴奏の奏法
	5	(グ) 旋律伴奏と両手コード伴奏の使い方	20	(個) リズムにのって楽しく表現できるようにする
	6	(個) 音楽の仕組みの理解	21	(グ) 教育：小学校4～6年教材 未来：両手コード伴奏の奏法
	7	曲の形式の理解	22	(グ) 教育：小学校4～6年教材 未来：両手コード伴奏の奏法
	8	(グ) 旋律伴奏と両手コード伴奏の使い方	23	(グ) 教育：小学校4～6年教材 未来：両手コード伴奏の奏法
	9	(グ) 旋律伴奏と両手コード伴奏の使い方	24	(個) 正確に表現豊かに余裕を持って弾き うたいをする
	10	(個) 曲にあった楽想を理解し、表現豊かに 演奏する	25	旋律伴奏と両手コード伴奏ができる
	11	(グ) コードとカデンツの確認	26	(グ) スケールとカデンツのまとめ
	12	(グ) コードとカデンツの確認	27	(グ) スケールとカデンツのまとめ
	13	(グ) コードとカデンツの確認	28	総復習
	14	豊岡課題確認レッスン	29	総復習
	15	総復習	30	総復習
成績評価基準	実技試験点80% 授業状況点20%			
使用テキスト	「こどものうた伴奏大全集」自由現代社「実用こどもの歌曲200選」ドレミ楽譜出版社			
実務経験	当該教員は保育園の他、ピアノ教室、リトミック教室での勤務経験がある。			

実務経験のある教員等による授業科目

科目名	こどもの保健		担当者氏名	船越利代子	
学 科 開講学年	こども未来学科 幼稚園教諭・保育士コース 2年	開講期	半期	授業時間数	30時間
授業目標	保育者として身につけてほしい知識を学び、どのような場でも子どもの命を守り、健やかな育ちを支えるに心身の健康と安全、成長発達に関する知識と技術を習得する。				
授業概要	子どもの心身両面の健康増進を図ることの意義を理解し、子どもの身体発育や生理機能の特性・発達子どもの健康状態とその把握、疾病とその予防と対応など、保育における保健的対応に必要な基礎的事項を学ぶ。				
授 業 計 画 表	1	子どもの心身の健康と保健に意義について理解する。(健康の概念、小児保健水準)			
	2	子どもの心身の健康と保健に意義について理解する。(保健における用語と教育の一体性)			
	3	身体発育と保健(乳幼児の計測、身体発育値の評価)			
	4	身体発育と保健(肥満とやせ、幼児期・学童期以降の運動機能の発達)			
	5	生理機能の発達と保健(自律神経、体温・呼吸・心拍・血圧・消化、排泄、睡眠)			
	6	生理機能の発達と保健(感覚器官、免疫)			
	7	精神機能の発達と保健(子どもの心の育ち、言語・社会性・情緒の発達、発達に影響する要因)			
	8	心身の健康状態とその把握(健康状態の観察ポイント、子どもの心身の健康、心身症)			
	9	心身の健康状態とその把握(生活習慣や行動上の問題、乳幼児健康診査、保護者との情報共有)			
	10	子どもの疾病の特徴(感染症、呼吸器疾患、消化器疾患)について理解する。			
	11	子どもの疾病の特徴(循環器、泌尿・生殖器疾患、中枢神経系・内分泌)について理解する。			
	12	子どもの疾病の特徴(血液・腫瘍性疾患、アレルギー性疾患)について理解する。			
	13	子どもの疾病の特徴(整形外科疾患、その他の皮膚疾患)			
	14	まとめ・振り返り			
	15	定期試験			
成績評価 基準	【定期試験】 (有) ・ 無 学習状況の確認：授業の前後に復習・予習時間をもうけて確認する。 科目の成績評価：授業態度・熱意(15%)、出席(15%)、レポート(20%)、試験(50%)で評価する。				
使用テキ スト等	文献 よくわかる子どもの保健 編著 丸尾良浩/竹内義博 出版社 ミネルヴァ書房 2021年1月15日発行 定価 2200円				
実務経験	当該教員は、看護師として病院勤務の経験がある				

実務経験のある教員等による授業科目

科目名	こどもの健康と安全		担当者氏名	船越利代子	
学 科 開講学年	こども未来学科 幼稚園教諭・保育士コース 2年	開講期	半期	授業時間数	30時間
授業目標	1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。 2. 保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について具体的に理解する。 3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。 4. 保育における感染症対策について具体的に理解する。 5. 子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に理解する。 6. 子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取り組みや保健活動の計画及び評価などについて具体的に理解する。				
授業概要	こどもの保育における健康および安全の管理に関する知識をどのように実践していくのかを実際に体験してみること、調べてみることに、仲間と考えて実践力をつけていく。また、視覚教材を使用する。本題に入る前後に復習（小テスト等）・予習の時間を設ける。				
授 業 計 画 表	1	保健的観点を踏まえた保育環境及び援助			
	2	保育における健康及び安全の管理			
	3	感染症対策・予防接種			
	4	保育における子どもの生活と保健的対応			
	5	保育における子どもの生活と保健的対応			
	6	個別的な配慮を要する子どもへの対応			
	7	個別的な配慮を要する子どもへの対応			
	8	職員間の連携と組織的取り組み			
	9	職員間の連携と情動的取り組み（地域子ども・子育て支援事業の概要）			
	10	救急時の対応（ぐったりしている、息をしていない、高いところから落ちた、熱がでた）			
	11	救急時の対応（熱中症、けいれんした、頭が痛い、胸が痛い、咳が出た、お腹が痛い）			
	12	救急時の対応（嘔吐、うんちがでない、下痢をした、おしっこが出にくい、おしもがかゆい）			
	13	救急時の対応（やけどした、手足がはれている、めやに、鼻血、耳や鼻に物を入れた）			
	14	まとめ・振り返り			
	15	定期試験			
成績評価 基準	<b>【定期試験】</b> <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 学習状況の確認：授業の前後に復習・予習時間をもうけて確認する。 科目の成績評価：授業態度・熱意（15%）、出席（15%）、レポート（20%）、試験（50%）で評価する。				
使用テキ スト等	文献 よくわかる子どもの保健 編著 丸尾良浩/竹内義博 出版社 ミネルヴァ書房 2021年1月15日発行 定価 2200円				
実務経験	当該教員は、看護師として病院勤務の経験がある				

実務経験のある教員等による授業科目

科目名		こどもと音楽表現「ピアノⅠ」		担当者氏名	深見ゆかり	
学 科	こども未来学科					
	スポーツ保育士コース	開講期	通年	授業時間数	60時間	
開講学年	1年					
授業目標	保育内容を理解し、具体的かつ豊かな音楽表現活動ができる技術と知識の習得を到達目標とする					
授業概要	ピアノ奏法を学び、弾きうたいや伴奏法への応用を中心に各自習得度に応じた指導を個人レッスンとグループレッスンにて行う					
授 業 計 画 表	1	オリエンテーション	16	(個) 実習曲を弾きうたいにする		
	2	(個) 拍の流れを感じて弾く	17	弾きうたいの伴奏法を学ぶ		
	3	正確なリズムで弾く	18	(グ) 2年次の実習曲の伴奏付け		
	4	(グ) 読譜力をつける	19	(グ) 2年次の実習曲の伴奏付け		
	5	単音伴奏で弾く	20	(個) 歌詞を理解して弾き方を工夫する		
	6	(個) 実習曲の練習	21	(グ) 2年次の実習曲の伴奏付け		
	7	ハ長調の理解	22	(グ) 2年次の実習曲の伴奏付け		
	8	旋律と伴奏を合わせて弾く	23	(グ) 2年次の実習曲の伴奏付け		
	9	(グ) コードの基礎、和音伴奏で弾く	24	(個) 余裕を持って弾きうたいができるようにする		
	10	(個) 実習曲の練習	25	(グ) スケールとカデンツのまとめ		
	11	ヘ長調の理解	26	(グ) スケールとカデンツのまとめ		
	12	(グ) コードネームについて	27	(グ) スケールとカデンツのまとめ		
	13	カデンツについて	28	総復習		
	14	豊岡課題確認レッスン	29	総復習		
	15	総復習	30	総復習		
成績評価基準	実技試験点80% 授業状況点20%					
使用テキスト等	「実用こどもの歌曲200選」ドレミ楽譜出版社「こどもと音楽表現」豊岡短期大学					
実務経験	当該教員は保育園の他、ピアノ教室、リトミック教室での勤務経験がある。					

実務経験のある教員等による授業科目

科目名	こどもと音楽表現「ピアノⅡ」		担当者氏名	深見ゆかり	
学 科	こども未来学科				
開講学年	スポーツ保育士コース 2年	開講期	通年	授業時間数	60時間
授業目標	保育内容を理解し、具体的かつ豊かな音楽表現活動ができる技術と知識の習得を到達目標とする				
授業概要	ピアノ奏法を学び、弾きうたいや伴奏法への応用を中心に各自習得度に応じた指導を個人レッスンとグループレッスンにて行う				
授 業 計 画 表	1	オリエンテーション	16	豊岡課題確認レッスン	
	2	(個) 実習曲を選択	17	(個) 季節・行事の曲を選択	
	3	旋律と伴奏のバランスを考えて演奏する	18	(グ) いろいろな伴奏形	
	4	(グ) 実習曲の取り扱い	19	リズムパターンを学ぶ	
	5	各自伴奏を作る	20	リズムパターンを学ぶ	
	6	(個) 曲想や強弱をつけて演奏する	21	(個) 歌詞を理解して弾き方を工夫する	
	7	(グ) 実習曲の取り扱い	22	(グ) 両手コード伴奏の導入	
	8	各自伴奏を作る	23	(グ) 両手コード伴奏の導入	
	9	各自伴奏を作る	24	(グ) 両手コード伴奏の導入	
	10	(個) 奏法の記号を表現しさまざまな表情をつける	25	(個) 曲の感じをつかみふさわしい速さで演奏する	
	11	(グ) スケール、カデンツの復習	26	(グ) 両手コード伴奏を作る	
	12	(グ) スケール、カデンツの復習	27	(グ) 両手コード伴奏を作る	
	13	(グ) スケール、カデンツの復習	28	(グ) 両手コード伴奏を作る	
	14	総復習	29	総復習	
	15	総復習	30	総復習	
成績評価基準	実技試験点80% 授業状況点20%				
使用テキスト等	「実用こどもの歌曲200選」ドレミ楽譜出版社「こどもと音楽表現」豊岡短期大学				
実務経験	当該教員は保育園の他、ピアノ教室、リトミック教室での勤務経験がある。				

実務経験のある教員等による授業科目

科目名	こどもと音楽表現「ピアノⅢ」	担当者氏名	深見ゆかり		
学 科	こども未来学科	開講期	通年	授業時間数	60時間
スポーツ保育士コース					
開講学年	2年				
授業目標	保育内容を理解し、具体的かつ豊かな音楽表現活動ができる技術と知識の習得を到達目標とする				
授業概要	ピアノ奏法を学び、弾きたいや伴奏法への応用を中心に各自習得度に応じた指導を個人レッスンとグループレッスンにて行う				
授 業 計 画 表	1	オリエンテーション	16	(個) 教育：小学校共通教材の取り扱い 未来：アニメソング、卒園の歌	
	2	(個) 遊び歌、季節・行事の歌より選択	17	(グ) 教育：小学校1～3年教材 未来：旋律伴奏の奏法	
	3	(グ) 旋律伴奏と両手コード伴奏の使い方	18	(グ) 教育：小学校1～3年教材 未来：旋律伴奏の奏法	
	4	(グ) 旋律伴奏と両手コード伴奏の使い方	19	(グ) 教育：小学校1～3年教材 未来：旋律伴奏の奏法	
	5	(グ) 旋律伴奏と両手コード伴奏の使い方	20	(個) リズムにのって楽しく表現できるようにする	
	6	(個) 音楽の仕組みの理解	21	(グ) 教育：小学校4～6年教材 未来：両手コード伴奏の奏法	
	7	曲の形式の理解	22	(グ) 教育：小学校4～6年教材 未来：両手コード伴奏の奏法	
	8	(グ) 旋律伴奏と両手コード伴奏の使い方	23	(グ) 教育：小学校4～6年教材 未来：両手コード伴奏の奏法	
	9	(グ) 旋律伴奏と両手コード伴奏の使い方	24	(個) 正確に表現豊かに余裕を持って弾き うたいをする	
	10	(個) 曲にあった楽想を理解し、表現豊かに演奏する	25	旋律伴奏と両手コード伴奏ができる	
	11	(グ) コードとカデンツの確認	26	(グ) スケールとカデンツのまとめ	
	12	(グ) コードとカデンツの確認	27	(グ) スケールとカデンツのまとめ	
	13	(グ) コードとカデンツの確認	28	総復習	
	14	豊岡課題確認レッスン	29	総復習	
	15	総復習	30	総復習	
成績評価基準	実技試験点80% 授業状況点20%				
使用テキスト	「こどものうた伴奏大全集」自由現代社「実用こどもの歌曲200選」ドレミ楽譜出版社				
実務経験	当該教員は保育園の他、ピアノ教室、リトミック教室での勤務経験がある。				

実務経験のある教員等による授業科目

科目名	生活支援技術A		担当者氏名	大内千秋・國谷千春	
学 科	[介護ふくし] 学科	開講期	通年	授業時間数	150時間
開講学年	1年				
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・尊厳の保持の観点から、どのような状態にあってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることを含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる知識について習得する</li> </ul>				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援技術全般の理論と実践</li> <li>・実習における国家試験対策</li> </ul>				
授業計画表	1	生活支援の理解①:介護者としての心構え生活支援の基本的な考え方			
	2	生活支援の理解②:生活支援の介護過程・ICFの視点に基づく生活支援・チームアプローチ			
	3	居住環境の整備①:住まいの役割と機能・生活空間			
	4	居住環境の整備②:快適な室内環境・安全に暮らすための生活環境・高齢者や障害者の住まい			
	5	ボディメカニクスの理解:ボディメカニクスとは(DVD)・廃用症候群とは			
	6	休息・睡眠の介護:休息・睡眠とは・休息・睡眠の介護			
	7	寝具の整え方①:ベッドの機能について・シーツのたたみ方・ベッドメイキング(実技)			
	8	寝具の整え方②:一人で行う・二人で行うベッドメイキングについて(実技)			
	9	寝具の整え方③:シーツ交換(ベッド上に利用者が寝ている場合の交換等)(実技)			
	10	移動の介護①:移動・移乗の基本的理解・姿勢・体位変換の介助・褥瘡の予防			
	11	移動の介護②:ベッド上の移動(上方・水平・対面法・背面法・長座位・端座位等)(実技)			
	12	移動の介護③:車椅子の構造・操作の仕方・ベッドから車椅子(実技)			
	13	移動の介護④:車椅子屋外体験・車椅子からベッドへの着床介助(実技)			
	14	復習:シーツ交換・移動・移乗			
	15	実技試験:ベッドメイキング・シーツ交換			
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科試験・実技試験</li> <li>・授業態度</li> </ul>				
使用テキスト等	最新 介護福祉養成講座 中央法規 2019. 3. 31 2200円(税別) 生活支援技術 I II				
使用テキスト等	当該教員は、高齢者介護事業所での勤務経験がある。				

実務経験のある教員等による授業科目

科目名	生活支援技術A		担当者氏名	大内千秋・國谷千春	
学 科	[介護ふくし] 学科	開講期	通年	授業時間数	150時間
開講学年	1年				
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・尊厳の保持の観点から、どのような状態にあってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることを含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる知識について習得する</li> </ul>				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援技術全般の理論と実践</li> <li>・実習における国家試験対策</li> </ul>				
授業計画表	16	実技試験②:移動・移乗の介護			
	17	移動介護:移動・移乗の介護移乗のための道具・用具			
	18	歩行の介助①:歩行の介助(2動作歩行・3動作歩行)のポイント			
	19	歩行の介助②:歩行の介助(実技)			
	20	福祉用具の意義:生活支援における福祉用具の重要性について			
	21	着脱介護①:衣服のもつ役割、利用者の状態に応じた着脱介助の視点			
	22	着脱介護②:浴衣の着方、たたみ方(実技)			
	23	着脱介護③:開きパジャマ(ベッド上、椅子)(実技)			
	24	着脱介護④:かぶりパジャマ(ベッド上、椅子)(実技)			
	25	着脱介護⑤:復習			
	26	実技試験:衣服の着脱			
	27	食事の介護:食事の意義と目的・咀嚼と嚥下について			
	28	食事の介護:自立に向けた食事の介護・利用者の状況に応じた食事介助の方法			
	29	食事の介護:食事の介護における他職種との連携(誤嚥・脱水・口腔ケア等)			
30	食事の介護:食事体験(とろみ・吸い飲み・左手で目隠しをして食べてみる)				
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科試験・実技試験</li> <li>・授業態度</li> </ul>				
使用テキスト等	最新 介護福祉士養成講座 中央法規 2019. 3. 31 2200円(税別) 生活支援技術 I II				
使用テキスト等	当該教員は、高齢者介護事業所での勤務経験がある。				



実務経験のある教員等による授業科目

科目名	生活支援技術 A		担当者氏名	大内千秋・國谷千春	
学 科	[介護ふくし] 学科		開講期	通年	授業時間数
開講学年	1年				
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・尊厳の保持の観点から、どのような状態にあってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることを含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる知識について習得する</li> </ul>				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援技術全般の理論と実践</li> <li>・実習における国家試験対策</li> </ul>				
授業計画表	31	口腔ケアの介護:口腔ケアの重要性・口腔体操の効果について			
	32	口腔ケアの介護:歯磨き・口腔の清拭法・実施時の留意点(体験)			
	33	体験学習のまとめ:食事体験・口腔ケア等			
	34	排泄の介護:排泄の意義・目的・排泄の仕組みについて			
	35	排泄の介護:自立した排泄介護について			
	36	排泄の介護:ポータブルトイレ・尿器・差し込み便器の介助(実技)			
	37	排泄の介護:オムツの介助(実技)			
	38	排泄の介護:排泄介護の復習(実技)			
	39	排泄の介護:実技試験			
	40	前期の復習:ベッドメイキング・シーツ交換(実技)			
	41	前期の復習:移動・移乗の介護(実技)			
	42	前期の復習:着脱介護(実技)			
	43	前期の復習:排泄介護(実技)			
	44	実技試験			
	45	学科試験			
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科試験・実技試験</li> <li>・授業態度</li> </ul>				
使用テキスト等	最新 介護福祉士養成講座 中央法規 2019. 3. 31 2200円(税別) 生活支援技術 I II				
使用テキスト等	当該教員は、高齢者介護事業所での勤務経験がある。				

実務経験のある教員等による授業科目

科目名	生活支援技術A		担当者氏名	大内千秋・國谷千春	
学 科	[介護ふくし] 学科	開講期	通年	授業時間数	150時間
開講学年	1年				
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・尊厳の保持の観点から、どのような状態にあってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることを含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる知識について習得する</li> </ul>				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援技術全般の理論と実践</li> <li>・実習における国家試験対策</li> </ul>				
授業計画表	46	前期の復習 ①:学科の復習			
	47	前期の復習 ②:実技の復習			
	48	身じたくの介護:身じたくの意義・目的(洗面・整髪・ひげそり・爪の手入れ・耳の清潔)			
	49	清潔保持の介護①:入浴・清潔保持の意義・目的・入浴の種類			
	50	清潔保持の介護②:入浴の介護の留意点			
	51	清潔保持の介護③:入浴・清潔保持の意義・目的清潔保持のための福祉用具について			
	52	清潔保持の介護④:洗髪・足浴(洗髪器作り、ベッド上で洗髪体験)			
	53	清潔保持の介護⑤:入浴・清潔保持の意義・目的清潔保持のための福祉用具について			
	54	清潔保持の介護⑥:入浴に関連した他職種連携			
	55	終末期の介護①:人生の最終段階の意義と介護の役割			
	56	終末期の介護②:人生の最終段階におけるアセスメントの視点			
	57	終末期の介護③:人生の最終段階における介護			
	58	復習①:ボディメカニクスを使った移動・移乗(ベッド上の移動・ベッドからの移乗)			
	59	復習②:ボディメカニクスを使った移動・移乗②(杖・ガイドヘルプ)			
60	復習③:着脱(浴衣・パジャマ)				
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科試験・実技試験</li> <li>・授業態度</li> </ul>				
使用テキスト等	最新 介護福祉養成講座 中央法規 2019. 3. 31 2200円(税別) 生活支援技術 I II				
使用テキスト等	当該教員は、高齢者介護事業所での勤務経験がある。				

### 実務経験のある教員等による授業科目

科目名	生活支援技術 A		担当者氏名	大内千秋・國谷千春	
学 科	[介護ふくし] 学科	開講期	通年	授業時間数	150 時間
開講学年	1 年				
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 尊厳の保持の観点から、どのような状態にあってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることを含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる知識について習得する</li> </ul>				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生活支援技術全般の理論と実践</li> <li>・ 実習における国家試験対策</li> </ul>				
授業計画表	61	復習④:着脱 (椅子での着替え・かぶり)			
	62	復習⑤:排泄 (便器・ポータブルトイレ)			
	63	復習⑥:排泄 (おむつ交換)			
	64	国家試験対策:過去問題・予想問題を解いて解説①			
	65	国家試験対策:過去の実技試験 3 事例①			
	66	国家試験対策:過去問題・予想問題を解いて解説②			
	67	国家試験対策:過去の実技試験 3 事例②			
	68	国家試験対策:過去問題・予想問題を解いて解説③			
	69	国家試験対策:過去の実技試験 3 事例③			
	70	国家試験対策:過去問題・予想問題を解いて解説④			
	71	国家試験対策:過去の実技試験 3 事例④			
	72	国家試験対策:過去問題・予想問題を解いて解説⑤			
	73	国家試験対策:過去の実技試験 3 事例⑤			
	74	実技試験			
	75	学科試験			
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学科試験・実技試験</li> <li>・ 授業態度</li> </ul>				
使用テキスト等	最新 介護福祉養成講座 中央法規 2019. 3. 31 2200 円(税別) 生活支援技術 I II				
使用テキスト等	当該教員は、高齢者介護事業所での勤務経験がある。				

実務経験のある教員等による授業科目

科目名	コミュニケーション技術		担当者氏名	笹島 修	
学 科	[ 介護ふくし ] 学科	開講期	通年	授業時間数	90分×30回
開講学年	1年				
授業目標	介護を必要とする方の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習とする。				
授業概要	各回の講義でテキスト内容の説明と、介護現場での事例を説明しコミュニケーション技術についての理解を深める。グループワークやディスカッションを用いて学生同士のコミュニケーションを促し、介護実践に必要なコミュニケーションと、チーム力を高めるコミュニケーションの習得を図る。				
授業計画表	1	介護におけるコミュニケーションとは	16	さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援	
	2	介護におけるコミュニケーションの対象	17	さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援	
	3	援助関係とコミュニケーション	18	家族とコミュニケーション	
	4	コミュニケーション態度に関する基本技術	19	家族とコミュニケーション	
	5	コミュニケーション態度に関する基本技術	20	家族とコミュニケーション	
	6	コミュニケーション態度に関する基本技術	21	介護におけるチームのコミュニケーション	
	7	コミュニケーション態度に関する基本技術	22	報告・連絡・相談の技術	
	8	言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本	23	報告・連絡・相談の技術	
	9	言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本	24	記録の技術	
	10	言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本	25	記録の技術	
	11	目的別のコミュニケーション技術	26	会議・議事進行・説明の技術	
	12	目的別のコミュニケーション技術	27	会議・議事進行・説明の技術	
	13	集団におけるコミュニケーション技術	28	事例検討に関する技術	
	14	集団におけるコミュニケーション技術	29	情報の活用と管理のための技術	
	15	前期試験	30	後期試験	
成績評価基準	出席を不可欠の前提としたうえで、定期試験の成績にレポート等の成績を加味して総合的に評価し、60点以上の者に単位を認定する。				
使用テキスト等	最新介護福祉士養成講座 第5巻「コミュニケーション技術」 中央法規出版				
実務経験	当該教員は、高齢者福祉施設の管理者として在職中である。				

実務経験のある教員等による授業科目

科目名	補強運動理論・実際		担当者氏名	綿引 里紗	
学 科	[健康スポーツ] 学科	開講期	通年	授業時間数	60時間
開講学年	1年				
授業目標	目的：座学を通して運動のあり方、実技を通してコミュニケーション能力・実践的な知識を身に着ける。 目標：筋力トレーニング・有酸素トレーニングのあり方・指導法・トレーニングメニューを作成できる。				
授業概要	健康運動実践指導者試験課題5種目+マシンなど実技と筆記試験のための知識向上				
授業計画表	1	OR(教室):自己紹介・授業の理解・前期の目標1人1人の将来への認識	16	OR(教室):授業の理解・後期の目標	
	2	体験プログラム(アリーナ):レジスタンストレーニングとは	17	筋様式(教室):筋様式のおさらい	
	3	レジスタンスとは(教室):レジスタンストレーニングとは①	18	メニュー作成方法(教室):トレーニングメニュー作成方法・W-UP・C-DOWNも簡単に・・・	
	4	レジスタンスとは(教室):レジスタンストレーニングとは②	19	実践①(FT):課題を与えトレーニングメニューを作成(自分)	
	5	テスト:確認テスト	20	作成したメニューで実践	
	6	有酸素トレーニング(FT):マシンの使い方・指導方法	21	作成したメニューで実践	
	7	筋肉様式(教室):筋肉様式の理解	22	作成したメニューで実践 19~23はトレーニングを続けて結果を見る	
	8	筋力トレーニング(FT):筋力トレーニングとは・・・、マシンの使い方・指導法	23	RADICAL(アリーナ):RADICAL PWER CADIO60	
	9	筋力トレーニング(FT):ダンベルトレーニング	24	実践②(アリーナ):課題を与えトレーニングメニューを作成	
	10	筋力トレーニング(山新):筋力マシン&有酸素マシンの使い方と効果	25	実践①で行った反省をもとに他の人に指導をする(クラス)	
	11	テスト:確認テスト	26	作成したメニューで実践	
	12	コミュニケーション(FT):指導しながらコミュニケーションを学ぶ(サーキット・チューブ等)	27	作成したメニューで実践	
	13	トレーニング:筋力トレーニング指導	28	作成したメニューで実践	
	14	テスト対策(教室):前期試験対策	29	テスト対策(FT):後期試験対策	
	15	前期試験	30	後期試験	
成績評価基準	前期:筆記試験 後期:実技試験				
使用テキスト等	健康運動実践指導者養成用テキスト				
実務経験	当該教員は、スポーツインストラクターとしてスポーツクラブでの勤務経験がある。				

実務経験のある教員等による授業科目

科目名	アスリートリハビリテーション		担当者氏名	宮本 隆宏	
学 科 開講学年	[健康スポーツ] 学科 1年	開講期	半期	授業時間数	30時間
授業目標	アスレティックリハビリテーションの基礎知識・技術の習得				
授業概要	各身体部位におけるリハビリテーションの理論と実際				
授業 計 画 表	1	オリエンテーション：自己紹介、授業の進め方について			
	2	解剖学の基本的な知識 外傷と障害：動きの基本面・基本軸、関節の動き、外傷と障害の違い、発生のメカニズム			
	3	受傷～競技復帰まで：RICE処置,アスレティックリハビリテーションの流れ			
	4	足関節リハビリテーションプログラム：足関節のリハビリテーション			
	5	下腿リハビリテーションプログラム：下腿のリハビリテーション			
	6	膝関節リハビリテーションプログラム：膝関節のリハビリテーション			
	7	大腿リハビリテーションプログラム：大腿のリハビリテーション			
	8	股関節リハビリテーションプログラム：股関節のリハビリテーション			
	9	腰部リハビリテーションプログラム：腰部のリハビリテーション			
	10	腹部リハビリテーションプログラム：腹部のリハビリテーション			
	11	頸部リハビリテーションプログラム：頸部のリハビリテーション			
	12	肩関節リハビリテーションプログラム：肩関節のリハビリテーション			
	13	肘関節リハビリテーションプログラム：肘関節のリハビリテーション			
	14	手関節リハビリテーションプログラム：手関節のリハビリテーション			
	15	後期テスト：筆記試験			
成績評価 基準	筆記試験、実技試験、小テスト、授業態度				
使用テキ スト等	スポーツ指導者のためのスポーツ医学 南江堂				
実務経験	当該教員は、茨城県サッカー協会専属トレーナーとしての勤務経験がある。				

実務経験のある教員等による授業科目

科目名	ストレングストレーニング		担当者氏名	大金 広幸	
学 科	[健康スポーツ] 学科	開講期	半期	授業時間数	30時間
開講学年	2年				
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ストレングストレーニングの基礎を学び、実践・指導できるようになることが目的</li> <li>・座学と実技の両方を行う</li> <li>・生徒によるプレゼンテーションも行い、人前で指導するスキルを養う</li> </ul>				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ストレングストレーニングの理論と実践について主に演習を通して学ぶ。</li> </ul>				
授業計画表	1	授業の説明 シラバス、授業、実技試験の説明			
	2	解剖学 筋肉の構造			
	3	骨格筋の構造 筋、神経、骨格系の構造と機能			
	4	エネルギー供給機構 ATP-PC r系、解糖系、有酸素系			
	5	バイオメカニクス 筋力とパワー			
	6	レジスタンストレーニングへの適応 適応とオーバートレーニング			
	7	有酸素性トレーニングへの適応 基本的な適応と各要素の変化			
	8	トレーニング変数 プログラムデザインのための基礎			
	9	プログラミング プログラムデザイン			
	10	実技 エクササイズの説明と実技 (肩)			
	11	実技 エクササイズの説明と実技 (上腕)			
	12	サプリメント 身体作りの栄養について			
	13	実技 エクササイズの説明と実技 (腕)			
	14	実技 エクササイズの説明と実技 (体幹)			
	15	前期試験 実技試験			
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期末に実技試験を実施</li> <li>・評価は、A (90%～) B (80～89%) C (70～79%) D (60～69%)</li> </ul>				
使用テキスト等	NSCA パーソナルトレーナーのための基礎知識 日本ストレングス&コンディショニング協会				
実務経験	当該教員は、スポーツインストラクターとしてスポーツクラブでの勤務経験がある。				

実務経験のある教員等による授業科目

科目名	フィジカルトレーニング		担当者氏名	大金 広幸	
学 科	[健康スポーツ] 学科	開講期	半期	授業時間数	30時間
開講学年	2年				
授業目標	・フィジカルトレーニングの基礎を学び、実践・指導できるようになることが目的。				
授業概要	・座学と実技の両方を行う。 ・生徒によるプレゼンテーションも行い、人前で指導するスキルを養う。				
授業計画表	1	授業の説明 シラバス、授業、実技試験の説明			
	2	イントロ ファンクショナルとは			
	3	柔軟性トレーニング 利点や要因、タイプについて			
	4	自重エクササイズ 自重エクササイズ・スタビリティボールエクササイズ			
	5	ウォーミングアップ ウォーミングアップの重要性			
	6	レジスタンストレーニング エクササイズテクニックにガイドライン			
	7	実技 エクササイズの説明と実技 (胸)			
	8	実技 エクササイズの説明と実技 (背中)			
	9	実技 エクササイズの説明と実技 (脚)			
	10	プライオメトリックス スピードトレーニングとパフォーマンス			
	11	プライオ実技 スピードトレーニングとファンクショナルトレーニング			
	12	実技 エクササイズの説明と実技 (胸・背中・脚)			
	13	プレゼンテーション 生徒のプレゼンテーション、指導と洞察			
	14	プレゼンテーション 生徒のプレゼンテーション、指導と洞察			
	15	前期試験 実技試験			
成績評価基準	・学期末に実技試験を実施 ・評価は、A (90%～) B (80～89%) C (70～79%) D (60～69%)				
使用テキスト等	NSCA パーソナルトレーナーのための基礎知識 日本ストレングス&コンディショニング協会				
実務経験	当該教員は、スポーツインストラクターとしてスポーツクラブでの勤務経験がある。				



実務経験のある教員等による授業科目

科目名	介護予防運動指導		担当者氏名	石田 しのぶ	
学 科	[健康スポーツ] 学科	開講期	半期	授業時間数	30時間
開講学年	2年				
授業目標	介護予防運動の必要性を知り、運動内容を学び、指導する力をつける。				
授業概要	介護予防運動指導方法を実践し、運動プログラムを企画・実践する。				
授 業 計 画 表	1	オリエンテーション：アンケート、介護予防運動実技			
	2	介護予防指導論：おさらい			
	3	介護予防運動・実践：筋肉を学ぶ			
	4	介護予防運動・実践：高齢者に多い障害を学ぶ			
	5	介護予防運動・実践：予防運動（上肢）			
	6	介護予防運動・実践：予防運動（下肢）			
	7	介護予防運動・実践：予防運動（体幹）			
	8	運動指導の実践：実技			
	9	運動指導の実践：実技（プログラム作成）			
	10	運動指導の実践：実技（プログラム作成）			
	11	運動指導：発表及び試験			
	12	ストレッチ			
	13	レクリエーション：認知症予防、シナプソロジー			
	14	試験対策			
	15	前期試験			
成績評価 基準	実技及び筆記試験で評価 授業態度も評価				
使用テキ スト等	プロが教える筋肉のしくみ・はたらきパーフェクト事典 ナツメ社				
実務経験	当該教員は、スポーツインストラクターとしてスポーツクラブでの勤務経験がある。				